都私幼連だより
こどもがまんなかPROJECT
8/9
2022 Aug/Sep
Kindergarten Information Development Society

東京都私立幼稚園連合会
編集発行人　内野光裕　〒102-0073　東京都千代田区九段北4-2-25　私学会館　TEL03(3262)3666・FAX03(3264)6195



理事長就任のご挨拶

（公社）東京都私立幼稚園教育研修会　理事長
友松浩志（神田寺幼稚園・千代田区）

都私幼連は、東京の私立幼稚園が力を合わせて、その公的な立場を維持し、財政運営を安定させるために不可欠な組織です。

一方、教育研修会は、東京の私立幼稚園の教育・保育の水準（質）を維持・発展させ、設置者・教職員のたゆまぬ研鑽・研究活動を推進する大切な組織です。

この度、この教育研修会の理事長に再選され、微力ながら再度その責任を負うことになりましたため、改めてご挨拶を申し上げます。

■コロナ禍での研修

この二年の間、当教育研修会も、コロナのため活動に大きな制約を受けてきました。直接顔を合わせての研修が行なえない歯がゆさ不足感は、大変大きなものがありました。

何とかリモートによって研修活動を維持したものの、その成果はまだ確認できていません。在宅や在園のままで研修が受けられるのは大きなメリットですが、その研修成果や反応が感じられないのは大変残念なことです。

本年度の研修活動は、コロナの感染状況を見ながらですが、できるだけ対面で実施していきたいと考えています。当然、感染対策をして、参加人数の制限や、開催方法の工夫などを行なっていきますので、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

■幼児教育の推進

こども家庭庁の創設など、子どもをめぐる社会情勢は刻々に変化しています。幼児教育を大切にしていく立場から、幼稚園が文部科学省の管轄に残ったことは、とても良かったと思います。幼稚園は、教育と保育を両輪として、子どもの幸福を最大の目標・目的に運営されています。

言うまでもなく、私立幼稚園は、それぞれの地域で、様々な意図をもって設立されたものです。その意図は「この園では、こんな子どもを育てたい」「こんな子どもに育ってほしい」という「願い」の結晶です。

教育というのは、「願い」です。目の前の子どもの幸福を願い、それを時間をかけて実現していく行為です。

幼稚園が、「教育機関」であることの意味がここにあります。子育てに「願い」を持ち、時間をかけてじっくりと子どもと向き合う姿勢、それこそが、幼児教育を担っていく幼稚園の姿勢です。

■これからの課題

保育時間の延長、保育年齢の拡大は、私たちに多くの課題を突きつけています。教育研修会でも、様々な課題や問題に対応した研修や研究活動を展開していく予定です。

また、教員免許更新制度廃止とともに、研修記録の蓄積が大きなテーマになっています。研修実積がしっかりと残るようにシステムを整備していきます。

学校評価もこれからの大きな課題です。公開保育をともなうECEQの評価が好評を頂いています。希望園が増えていますので、一層工夫を加えて、より活用しやすいものにして行きたいと思っています。

■幼保一元化という未来？

こども家庭庁の創設でも議論された「幼保一元化」。

もし保育所にも「子ども一人一坪の園庭」といった幼稚園と同等の設置基準が適用されるなら、それも一案かも知れません。現状、貴重な幼稚園を取り潰してコンビニ跡のような保育所を平気で認めて行くなら、それはとても日本の将来に「願い」を持った政策とは思えません。幼稚園が先導する一元化。それなら未来も見通せるように思います。

第１回次世代育成交流会

若手園長の組織改革

令和４年５月27日／私学会館

【講師】東一の江幼稚園　園長（江戸川区）　田澤　里喜　先生

【講師】まどか幼稚園　園長（葛飾区）　町山　太郎　先生

今般、「令和４年度第一回次世代育成交流会」に参加させて頂きました。講師に江戸川区・東一の江幼稚園園長の田澤里喜先生、葛飾区・まどか幼稚園園長の町山太郎先生にご登壇頂き、「若手園長の組織改革」をテーマに、①園長になって変えたこと、新たに取り組んだこと、②新たに変えたことにより保育者や保護者の反応は、③今後はどのようなことに注力していきたいか、についてお話をして頂きました。研修申込数は定員いっぱいとなったとのことで、両先生および、今回のテーマについて、興味関心の高さが伺えました。

両先生のお話には、園長になった時のエピソードやその時の心情、自らが実際に取り組んできたことへの熱い想いが随所に込められており、とても勉強になるだけでなく、時には失敗談や笑い話を交えて、２時間があっという間に過ぎるほど、濃い内容でありました。

その中でも、印象深いお話を１つずつ抜粋して紹介させて頂きます。



田澤里喜 先生

○田澤先生「行事や活動の精選…園は誰のためにあるのか」

田澤先生は、東一の江幼稚園のこれまで踏襲され行われてきていた活動や行事へ、教育的価値について、問い直し、行事や保育活動の精選をされてこられました。そこには、先代の想いとぶつかることや保育者や保護者からも理解が得られないということもあったといいます。「園はだれのためにあるのか」…田澤先生は何かにぶつかると幼稚園教育要領へ立ち戻ります。行事については、幼稚園教育要領「行事の指導にあたっては、幼稚園生活の自然の流れの中で生活に変化や潤いを与え、幼児が主体的に楽しく活動できるようにすること。なお、それぞれの行事については教育的価値を十分検討し、適切なものを精選し、幼児の負担にならないようにすること」としっかりと明記されています。

行事の精選をするにあたっては、「遊びの時間を創るために行事を減らして時間を作るだけでは、保育は豊かにならない。保育者自身がその活動や行事について必要感や教育的価値を持つことが大事である」と語られました。

普段何気なく行われている行事や保育活動について、一度疑いを持ち、保育を豊かにするために、それに対する教育的価値と子どもたちの負担について考え、「園は子どもたちのためにある」ためのリーダーシップをとる存在の大切さを学びました。



町山太郎 先生

○町山先生「当事者でなければ変えることができない」

町山先生は、平成27年度にまどか幼稚園の幼保連携型認定こども園化を行いました。新制度がスタートとなった平成27年度では、唯一、東京では認定こども園が減少した中での決断であったといいます。移行理由は、「認定こども園の収益があがらない構造自体がおかしい、認定こども園化し、当事者になって自治体との交渉を行わなければならない」という思いからでありました。減収覚悟で自治体へ移行を表明した後は、自治体と根気強く交渉を重ね、葛飾区独自の加算や補助金制度の創設に取り組まれました。

当時を振り返り、「自園のことだけでなく、その自治体の制度にどうやって自分自身が絡んでいくかというところに取り組み、良い経験になった。その時々のタイミングを読み、今何が大事なのか考えることが大切であると考えます。」と語られました。

新しい制度の在り方に疑問を持ち、あえて当事者となり、自らその制度を変えなければならないという意志と実現された実行力に敬服するとともに、常にタイミングを読み決断する覚悟を決めることの大切さを学びました。

○まとめ

ここ４年間で、東京都の未就学児の数も減少が加速し、幼稚園だけでなく保育園も定員割れが起こる状況となり、今後の園運営は、更に見通しが立てづらくなりました。今回の両先生のお話を聞いて、自園についても、先代の努力への感謝を忘れずに、未来を生きる子どもたちのための保育の質の向上や持続可能な園運営に対して、ヒントと勇気を得られた交流会となりました。

広報委員・中村清人

（きよせ幼稚園・清瀬市）

第1回園長・主幹研修会

これからの幼児教育の質を考える

令和4年6月6日／私学会館

【講師】聖心女子大学教授　河邉　貴子　先生



河邉貴子　先生

第1回園長・主幹研修会では、表題について河邉貴子先生が登壇された。以下に概要を示す。

冒頭、先生は日本の少子化の現状を紹介された。2021年生まれの子どもは、統計以来最小人数の81万1604人、東京の合計特殊出生率は1.08である。昨年生まれた子どもたちが2年後には幼稚園の入園対象児と考えると、各園の園児数減少への影響は大きいのは必然である。各園が、この来るべき現実にどのように対応していくのか、幼児期の子ども達に本当に必要な教育とは何か、しっかり考えていかなくてはならない。

管理職（園長）の仕事は、運営全般・人材育成・安全管理・環境整備・保護者対応・子育て支援・地域との連携など多岐に渡る。いずれも保育の質に関わることであるが、特に保育の質を担保するためには、人材育成（特にミドルリーダー）が重要であり、そのためには園内研修（園内研究）は欠かせない。

幼児期にふさわしい生活として、
・自分は愛され、守られている↓絶対的な安心感
・「世界」は面白さと喜びに満ちている↓喜び
・自ら「世界」と関わることで、自分は「世界」を変えられる↓自己有能感／能動性
・人と暮らすことは楽しく、支え合いは大切である↓社会性／協同性
・集中すること、没頭すること↓自己充実
・葛藤を体験し、そこから回復すること↓レジリエンス

これらが遊びを含めた園生活を通して経験できることが大切である。

では、遊びの中で育つ力とは何か。三つの視点から考えられる。

①自分との関わり（生きる喜び：自己肯定感・自発性・能動性・充実感など）
②他者との関わり（共に生きる喜び：コミュニケーション力・社会性・協同性）
③対象との関わり（考える喜び：法則性・規則性・思考力など）

そして、遊びの充実を目指すには、子どもを理解する保育者の眼差しが重要となり、その眼差しを磨く上でドキュメンテーションは有効である。ドキュメンテーションでは、子どもの遊びや状況を伝えるだけでなく、それらの意味付けをすることが重要となる。その際には前述の①～③の視点で考えてみてもよい。さらに保育者自身の反省や振り返りも付け加えておくとよい。

他方、一日の生活を振り返り、全体を俯瞰しつつ個人や遊びについて理解を深める記録方式として、保育マップ型記録を紹介された。多様な見方をするためには、記録の様式は定期的に見直すことが肝要である。

園内研修については、子ども目線で出来事を見る（考える）等、いくつかの方法に言及された。まずはあまり難しく考えずに、子どもの写真を紹介して、その場面について対話をしてみる等から始めてみてほしいとの話があった。

そうしたことを踏まえて、園の組織力を高めていくわけだが、そこにはミドルリーダーの役割が大きい。ミドルリーダーには、誠実であり、周囲を見えているかどうか、そして様々な課題を情動的に感受して、否定的に見ずに応答できることなどが求められる。保育は4年目・5年目の先生を中心に、園内研修を進めるのは4年目の先生がよい。ミドルリーダーは、失敗から学べる環境づくりや傾聴を心掛け、若手にそうした重要な役割を任せていくことで園の組織力が高まっていく。

そして園内の風通しが良くなり、話し合いの風土が出来上がってくると、地域のプラットフォームとしての園経営がうまくいくのではないかと述べられた。

最後に参加者同士が、自園の園内研修や情報発信の取り組みについての情報交換を行い、終了した。



広報副委員長・山﨑貴之
（青鳩幼稚園・葛飾区）

第１回経営研修会

令和４年６月10日／私学会館

ヒヤリハットから学ぶ危険予測と事故防止

【講師】　葛飾二葉幼稚園　園長（葛飾区）、東京都私立幼稚園連合会認定こども園協議会副幹事長　二葉　昭二　先生



葛飾二葉幼稚園オリジナル園内研修資料「10分でわかる保育施設のヒヤリハットと事故予防」をもとに、ヒヤリハット報告の重要性と職員での共有方法の現状から改善点まで、実際に自園での７年分のヒヤリハット報告を示して、伝えてくださいました。

保育施設において事故を防止するために「ヒヤリハット事例」を集めることが必要。

ヒヤリハットについて

１件の重大事故（①死亡事故②治療に要する期間が30日以上の負傷・疾病を伴う重篤な事故）の影には、29件の軽微な事故（病院受診が必要と判断した事故やケガで、結果異常なしまたは治療が29日以内の事故やケガ）、その下に３００件のヒヤリハット事例がある。葛飾二葉幼稚園の過去７年分の事例を挙げて、具体的なケガ、事故の数も交えて伝えて頂きました。

死亡事故の原因は、窒息・溺水・睡眠中・見失い中の熱中症などで、保育施設での死亡事故はケガではなくて事故が原因である。

窒息事故に軽傷はない。ヒヤリハットを放置しないで！窒息事故は「息が出来る様になりその場で回復するか」「息が出来ない状態が続いて死亡か脳に障害が残るか」の２極なので、受診する事例がほぼ無く、出来事の危なさが意識にのぼりにくい。取り返しの付かない死亡事故を起こさないためには「ヒヤリハット」事例が生きた情報になる。「食物アレルギー・プール・睡眠中・食事中・玩具を口に入れる」これらの５場面は、特に注意が必要。

命に関わるケガの場所　幼稚園で「ケガをなくす」ことはできない。しかし、命に関わるケガの場所は覚えよう。「頭の中」「首」「お腹の中」。

ヒヤリハットは全ての事例が子どもの死亡事故を防ぎ、命を守るための大切な情報源。

①ヒヤリハット報告はその場にいなかった人も経験則として心に留めておくことが出来ます。

②気づく人と気づかない人の差を埋める効果もあります。

③どんな気づきも、声にあげてください。個性ある職員の視点を生かします。

④目的は事故防止です。報告によって個人を責めたり、犯人捜しをしません。

⑤同じ行動や環境が繰り返されていても、報告数は分析や共有に必要です。

⑥毎月集計をおこない、危ない場所・物・人・出来事にスポットを当てます。対応策など話し合ったことを職員にフィードバックします。

⑦事故防止ガイドラインをもとに、過去の死亡事故の振り返りします。

ヒヤリハット報告具体例　30秒程度で作成できる様に工夫したヒヤリハット報告シートを基に、集めたヒヤリハット事例からＲ４年４・５月分２７０件全を見せて頂きました。職員は毎日の会議でその日のヒヤリハットを共有しているそうです。「年中児○○君が２階から物投げた。」「欠席なのに保護者連絡なく、見失いを疑った。」「おやつを口に入れたまま寝てしまった。」「ピアノの蓋を開け閉めした。」等

また、自園での怪我（骨折）発生後の在園児保護者への報告の手紙も見せて頂きました。手紙には事故の経緯、状態、園の安全への方針、対応策などだけでなく、今までやってきている事故防止の対策、研修。ＡＥＤの有無、救急救命訓練、ヒヤリハット事例報告などを含めて普段から行ってることも手紙にして在園保護者に伝えていました。

保護者への手紙の中での「遊具での危険をゼロにするには遊具撤去以外にないが、それでは子どもの成長に不可欠な様々な経験を奪ってしまうことにもなります。だからこそ、リスクをできるだけ減らすべく日々の点検、使用法のチェックと共に、普段の保育の積み重ね（約束、身体能力、体力向上、子ども自身の危険に対する意識の育ち）が事故の防止策となります。」という言葉が印象的でした。

重大事故を防ぎながらも子ども達の成長の機会を確保する信念とそれを裏付けるための「ヒヤリハット」の実績に説得力がありました。

広報委員・浅井正信

（東江幼稚園・葛飾区）

ECEQ
公開保育

日の出幼稚園（日の出町）

令和4年6月15日







関　政子委員長



加藤篤彦専務理事



野口純子園長













6月15日、学校法人野口学園・日の出幼稚園で開催されたECEQ公開保育に参加しました。

園を訪問し、まず飛び込んできたのが思わず「羨ましい！」ともらしてしまった斜面を利用した広々とした園庭環境です。広い平地の部分に加え、斜面に生い茂る木々の中にいくつもの木製遊具が配置されています。全日本私立幼稚園連合会こどもがまんなかプロジェクトアワードの優秀賞にも選ばれており、その環境でダイナミックに遊ぶ子どもたちを見たいと思いましたが、当日はあいにくの雨天のため日中の保育は全て室内となりました。

また、当日は午前保育ということもあり、室内のみで時間的にも限られた中での保育でしたが、その状況を全く感じさせず子どもたちはみな思い思いに遊びを見つけ、実にゆったりと過ごしていたことが大変印象的でした。

保育では「遊びを中心とし、仲間との触れ合いの中で子ども自身が楽しいと感じられ、自分たちの生活をまかなおうとする力・まかなえる力を養うこと」という保育目標や「知識や技術を教え込むのではなく、自らが気づき、学ぼうとする意欲を持つことが理想」という方針の通り、子どもたちは各々の気持ちに従い、やることも止めることも自らの判断で行っている様子が随所に見られました。朝の支度でも、先生たちは急かすのでもなく、促すのでもなく、少し様子を見て実に絶妙なタイミングで自然に声掛けをしていました。また、野口純子園長先生から「いっしょに」遊びをつくること、生活の中で何かをみつけていくことを大切にしているというお話があった通り、保育では子どもたちが協同的に何かをしている姿も多くみられました。年少のクラスでもその姿を見ることができ、牛乳パックの製作を先生やともだちと声を掛け合い試行錯誤して進めている姿や、重いものを持つときに「そっち持ってくれる?」「いいよ!」という気持ちの良いやりとりに遭遇し、園の大事にしたいものが3歳児のこの時期でもしっかりと形になっていることを実感しました。

午後の説明では（一財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構専務理事の加藤篤彦先生、東京都私立幼稚園連合会教育研究委員会委員長の関政子先生より『共に学び合う』形式のECEQ公開保育実施における意義についてのお話がありました。その後は野口純子園長先生より園の保育の説明があり、各学年ごとの分科会となりました。

テーマに沿って着眼点を定め保育を見学することや自園と他園を比較しその違いを言語化して他人に伝えること、そして他園の色々な立場の先生の考えを聞き自分に無かった新たな視点を持つことなど、ECEQは参加した全園の先生が成長できるものだと感じました。今回頂いた、たくさんの自園成長のヒントをしっかりと今後の園の保育に活かしていきたいと思いました。

参加記・石橋　樹
（小平なみき幼稚園・小平市）

東京都私立幼稚園ＰＴＡ連合会　研修会

令和４年６月15日／私学会館

前半の部　【講師】　俳優・内閣府「働き方改革実現会議」元民間議員　いくいな晃子　先生

後半の部　【講師】　タレント　はなわ　先生



いくいな晃子 先生



はなわ 先生

２年ぶりに対面での開催が出来た都私幼ＰＴＡ連合会の研修会。コロナ禍という事もあり、例年よりは席数を減らして約４００名の保護者を迎えての開催となりました。

はじめに、東京都私立幼稚園ＰＴＡ連合会の月本会長、東京都私立幼稚園連合会会長の内野会長よりご挨拶のもと、開会となりました。前半の部の講演は、俳優であり内閣府「働き方改革実現会議」元民間議員である、いくいな晃子先生。『健康と環境』という面において、いくいな先生自身の経験をもとにお話しされました。２０１１年に乳がんが発覚し、そこからの闘病生活。ネガティブになってしまう気持ちの中、主治医の先生に「生きるという目標が出来て良かったね」と日々を大切に生きる前向きな言葉をもらい、また何より毎日共に過ごすご主人、そして当時５歳の娘さんが、病状を告げても変わりなく普通に接してくれたことが、家族にとって必要な自分。自分が必要とされている事の有難さとなり、前向きに治療をする決意となったそうです。その中で副作用に苦しまれ、心が負の連鎖になる事も多々あったそうです。振り返ると本当に辛い日々だったと語られる姿は私の想像を遥かに超えるものだろうと感じました。「日々親として忙しいとは思います。ですが少し休める時に、自分へのご褒美と思って早めの健診をしましょう。それは自身の為でもあり、周りの大切な家族の為でもあります。」と、強く伝えてくださいました。そして、ご自身の経験から癌や病気に対して、理解と共感のある社会を作りたい。そう思うようになり、現在その活動を広めているそうです。講演の最後におっしゃった言葉。「生きてなんぼ」そして「普通であること」大切な「いのち」、自分自身だけのものではない「いのち」。日々起こりうる様々な出来事の中で、普通であることの難しさ。「普通」でいられる事が最良の生き方だと思います。というお言葉で講演を終えられました。

包み隠さず、ご本人の体験を語られている姿に心打たれ涙されている方もいらっしゃいました。改めて尊い「いのち」を大切にする気持ちを会場の皆様が共に感じるひと時でした。

続いて後半の部ではタレントのはなわ先生。はじめにフリーアナウンサーの阿部暁燿子さんとの対談形式での講演。テレビ出演により人気となった柔道３兄弟のお話や、奥様との子育話を面白楽しく伝えてくださいました。朝ごはんでお米10合！1日トータル18合！これには会場の皆様も驚きと笑いが！その経験上、やはり食べる子は強いと感じられたそうです。放任主義で育ててこられたとおっしゃる中で、それはやはりしっかり教育される奥様がいるからゆえ、そして自分が注意をしたり、子どもたちがしている事を制する事で、子どもたち自身が学ぶ力を失わせたくないという想いがあったそうです。

奥様の天然ぶりを惜しげもなく話してくださる中でも、心から奥様に感謝されている気持ちがたくさん伝わると共に、ご家族への愛をたくさん感じました。

対談の後は、ミニライブ！ベースではなくアコースティックギターでの弾き語りスタイルで、私の世代では知らない人はいないであろう「佐賀県」の歌を含む３曲を披露してくださり、笑いあり涙ありの素敵なライブでした。

便利な世の中でありますが、実際に同じ場にて顔を合わせ、同じ空気を感じながらの研修は、やはりオンラインでは感じられない温かさがありました。お忙しい中、貴重な講演を頂きましたお二方、ありがとうございました。



広報委員・千田真尚
（本行寺第二伊興幼稚園・足立区）

第1回養成校交流会

令和4年6月22日／私学会館





この時期、多くの養成校では実習等でご多忙にも関わらず、養成校からは大学21校、短期大学7校、専門学校7校の計33校から1名ずつ、学部・学科の教員の方、実習・就職ご担当の方のご参加をいただきました。都私幼連加盟園からは42園の参加がありました。

当日は、15のテーブルにそれぞれ、養成校の方2～3名、加盟園参加者2～3名、進行役の経営研究委員1名が着く形で行われました。

司会の先生による開会、都私幼連会長内野先生のあいさつ、趣旨説明の後、各テーブルで意見交換となりました。進行表では、自己紹介、①学生の就職活動について②求人・応募の実態について③養成校と幼稚園との安定した連携について④質の高い人材を幼稚園教諭として現場に送り出すために⑤幼稚園フェアと養成校交流会について⑥その他都私幼連に期待することを中心にということでしたが、活発な意見交換ができたテーブルが多かったようです。取材者のテーブルでは、○求人票について○株式会社立保育所○人材紹介会社○実習のありかた等の話題が興味深かったです。他の参加者数名に取材したところ、○学生の気質○幼稚園フェア参加への指導○求人しても応募がないが学校は何もしてくれないのか○求人のありかた等の話題が出たとのことでした。

テーブルごとに意見交換の内容はさまざまだったと思いますが、それぞれ経営研究委員が集約して今後に活かせるようにしていただけることと思います。

新型コロナのこともあり、感染拡大を懸念して対面の会合を中止せざるを得なかった時期もありました。それを考えれば、一堂に会し開催できただけでも意義ありと思います。今回は加盟園参加者がいろいろな養成校の方とお話しができるいつもの形式ではなかったですが、今後の復活を楽しみに、期待したいと思います。

ご参加のみなさま、お疲れさまでした。ありがとうございました。

広報副委員長　加藤壮大

（鵜ノ木幼稚園・大田区）

第2回新規採用教員研修会

令和4年6月22日～28日／オンライン

「園児の安全を守るために」

【講師】国士舘大学 防災・救急救助総合研究所 准教授、救急救命士、博士（救急救命学）

月ヶ瀬　恭子 先生



月ヶ瀬恭子 先生

「園児の安全を守るために」をタイトルに①安全とは②事例から学ぶ③大切な事④応急手当の順に講義されました。安全に過ごせるように事故の事前回避として保育者ができる事は、・園児たちの行動に目を配る・遊びの中のルールを守らせる・食事中のマナー（誤嚥を防ぐためにしっかりよく噛んで食べる・椅子の座り方等）を繰り返し伝えていくこと。又、2つの大切な事として⑴判断すること⑵自分自身の安全確保を挙げられました。まず⑴については、緊急事態の時に、いかに速やかに判断することができるかが重要で、その選択が正しいかどうかは、その時点では分からないが、一つの判断が次の判断・行動に繋がっていく。判断が判断を呼び、助けられる命が増えていくとのこと。⑵については、絶対的なルールであり、どんな業種であれ、緊急事態に対応する際に、自分自身の安全を守った上で手を差し伸べることが大切とのこと。自分が怪我をしてしまうと、その他の人を助けられなくなってしまうため、「まず一歩　踏み出す前に　一呼吸　あなたの命が最優先」を常に念頭においておくこと。想定外の出来事が起こった時に、まず立ち止まり、一呼吸しつつ「見る」。周囲の状況確認、二次災害の危険はないか、３６０度全て見回すこと。車等の往来があれば、交通の遮断をする、建物が倒壊する危険があれば、近づかない、ガス漏れ等の見えない危険はないか、変な臭いがする等の場合は、安易に近づかない。又、体液や血液に直接触れないために、常時グローブ等を携帯しておくことは大切とのこと。怪我や事故が起こった際の記録を時系列でとっておくことも救急隊や保護者との連絡の上で必要とのこと。大切な子どもたちを守るために、定期的な研修・訓練は重要であり、緊急事態はいつ起こるか分からないため、平時からの心構えと準備が必要とのこと。保育だけでなく日常生活においても、とても参考になる講義内容でした。

広報委員　清田宏美

（葛飾若草幼稚園・葛飾区）

都私幼連の動き

〔8月〕

8／2　私学助成学校法人立園研修会・全体会（AP八重洲）
8／4　②新規採用教員夏期研修会（1日目）
8／5　②新規採用教員夏期研修会（2日目）
8／9　中堅教諭研修会（1日目）
8／10　中堅教諭研修会（2日目）
8／18　総務委員会
8／26　正副会長・委員長会
8／26　連合会 理事会
8／29　広報委員会

〔9月〕

9／7～9／13　②教諭研修会
9／9　②園長・主幹研修会
9／12　②経営研修会
9／20　ＰＴＡ大会


WEB注文システムで保護者からの直接注文可能。
丁寧な対応で幼稚園運営をサポートします。
ピーポッポ印 園服・園帽・トレーニングウェア・カバン製造元
株式会社 成増園服研究所
東京都板橋区大山金井町43－1 TEL（03）3957-2176（代）

コロナ禍だからこそ！　子ども主役の幼稚園

りっこう幼稚園（練馬区）
園長　角井美穂里

りっこう幼稚園は、創立75年。広い園庭と自然の恵み（くるみ、さくらんぼ、夏みかん、ザクロ、いちじく、さくらんぼ、プラム、柿、みかん、ジュンベリー、果樹がたくさん）にあふれています。

私は、本園で担任を17年、フリーで14年保育に携わり昨年度、園長に就任しました。りっこう幼稚園で、子どもたちの世界、毎日の保育の中で展開される一人ひとりの子どもたちの「ものがたり」に魅せられています。りっこう幼稚園では、毎日全園児で思う存分外遊びをしています。虫探し、泥団子作り、といをつなげた水遊び、、、に没頭しています。よく今の子どもはと言われますが環境さえあれば、子どもたちの遊びは、昔も今も変わらない。子どもたちの興味あるものに目を輝かせ夢中になる瞬間を受けとめ共有できることが、保育者にとっての恵みと思っています。コロナ禍で、入園前まで友だちとかかわったり、外で過ごす経験ができなかった子どもたちにとって、幼稚園で思う存分遊ぶ経験を大切にしたいです。「子どもたちの素敵な世界」の中で一人ひとりが育っていく喜びを保護者の方々とも分かち合いたい、共有したいです。園長として未熟な私ですが、子どもたちの歩みにゆっくり丁寧にむきあっていきたいです。子どもたちにとっても保護者の方々にとっても嬉しい園生活となることを祈りながら。

ひろば



編集後記

◆この原稿を書いている６月初旬、新しい環境や生活が始まり約２カ月、それに慣れてきた子ども達もいれば、まだ不安な様子を見せる子ども達もいる。同じ年齢や月齢でも、子ども達の成長には個人差がある。私たち保育者は「○歳の○月はこういう時期」と決め付けずに、子ども一人ひとりに合わせた援助が大切である。それぞれのペースで必要な経験を過ごしてきた子ども達は、自ら次の段階へと成長していくことだろう。◆そのためには子ども理解を深めるための保育者の目が重要だ。職員には「子どもの姿を肯定的に捉えていこう」と話しているが、つい子ども目線でなく、こうあって欲しいという大人目線で見てしまうことが多い。◆今回の園長・主幹研修会では、改めて人材育成と園内研修の大切さを実感し、次世代育成交流会では、「園長は職員室の担任」との話があった。子ども達のため、保育の質を高めるためには、保育者の成長が欠かせない。職員室の担任として、園長の役割は大きい。（山﨑）